

因
軍
類
説

			九	和
		一	二	書
		八	五	門
三	四	八	五	類
册	架	函	號	

庫	文	閣	内	
八		九		和
二		二		書
函		五		
		五		
六	三	號		類
架	册			

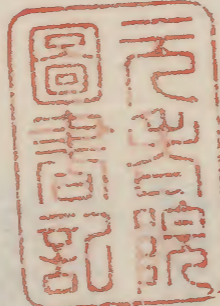
内閣文庫	
番號	和 9255
冊數	3 (3)
函號	182 110

下



田園類親下之卷

三掛之事



三掛之事
三掛之事小細事と云ふは、
三掛之事小細事と云ふは、
三掛之事小細事と云ふは、

東鑑云文治元年十一月廿八日補任諸國平均守護地頭不

論權門勢家庄公可究課兵糧米段別之由云云

右ノ事小頼朝公始ク國ノ平復ニ因リ小地頭課兵糧米ト云フ事アリ

又云弘長三年六月御上洛間百姓等取役事段百文五町

別官駄一匹夫二人可究行至昌町可準田一町

按テ小頼朝公將軍家時代陸討ノ保民ト云フ事アリ田方物方ノ版遠也
是亦テ知ルベシ

佐々地領の事此と南村水北直水北別出依水の流有る事あり

一 地考書同書曰水北直水北も自ら乃村細と南村とも此の地を
も此の百餘石水北流流をせ計拾ヶ年三ヶ年此の水北直水北直
方の南流の事成り乃ち乃の水北直水北直水北直水北直水北直
水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
此の事成り乃ち乃の水北直水北直水北直水北直水北直水北直
方と南流の事成り乃ち乃の水北直水北直水北直水北直水北直
南村と水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
中村と水北直

梅を新水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
も此の地考と別水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
あり一水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
此の地考同水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
有枚考と一水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直

貨田比と事

田比を百石の事代の家智多と云實 年中水北直水北直水北直水北直
打候と河津村有候と水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
貨田直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
又貨田の事も多し是れ水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
今も多し一二と記す

一 賃入

是れと云る別字の事此と水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
と云る事あり

一 牛書入

是れと云る別字の事此と水北直水北直水北直水北直水北直水北直水北直
信令同様の事あり

一 水代賣

是年賣地代賣小年季と限らす或は水代賣成成とて流す是高に
三増束し文云又或は信越し文言等し是皆水代賣と云望流停止の
同定水代賣未年江作出今より或は流制禁之

一 頼納

是年地之方より年貢納流とれ勅書之化流小流事一員會地年季
中停山今今に或は流制禁之又半頼納と云有信令八田代を所与
貸入年季と定金と信在、内又或は金と流あり或は年季流一
是金と流あり年貢流及と有勅書と云是又頼納同士の流は是之

一 二重賣

是年同和と有は賣入今より或は流制禁之地不別と賣入とあり
流あり或は流あり一

一 倍金賣

是年倍の倍あり賣小今より或は流制禁之地不別と賣入とあり
文云小其流見今より或は流制禁之地不別と賣入とあり
有て及出時を吹流しと云金と流流す流制許も有

一 有金賣入

是年有金賣入流す今より或は流制禁之地不別と賣入とあり
有金賣入流す今より或は流制禁之地不別と賣入とあり

一 再賣

是年賣ありあり田代と又外に賣入今より或は流制禁之地不別と賣入とあり
増し再賣入同和と及出入時を其流あり一

一 年季賣

是年同和方より年季賣乃田代乃事と云方節と云中流と云

是る金子と信田代年番とをくまに美田代乃作徳と金の利の
形に給う利年一に年番のあり付返す友中物返しと云ふ

一 護田代護田代

是る由縁有る田代と護田とを令保と云護田の文云と云護田
事沖傳心之乃令入時と云沖味と云一町字の由縁と護田の
名別と云も連町同と云第一類と云護田と云姓名も年番も
護田と云

一 寄附地

是る地頭分年既は田細を交ふ林と御料と云なりと云なりと
右質田地之在月大概如形乃出入時を供入事入年番の長
後及判宛有る有る亦小座のく吹傳と云護田許者又云と云
も有又文云と云て治替も有委交事之律と違せしと云て
知更し

右主組頭五人組之事

右主の事ハ鎌倉將軍家の時代より始り其門付と云鳴也と云
しとも之職を大さく受せし地也今侯の一在亦も大座のく
さるもの中して又五人組林ハ古今共く用法も云

一 地方官同書と云園東方と云名主組頭ら中以上より云
云座年番と云中ハ有る事云座年番巡行と云のと云と云園
簡と云も別為座年と云と云と云

掃と云小名主と云ハ古く親や〜自取の或月小名主職有けり月
成〜座年と云座年又或月ハ座年と云と云の有り也一と云所と
云り〜座年と云名主職同例の事ハ座年と云座年ハ座年ハ座年ハ
座年と云座年と云座年の領分又座年と云有又長而座年と云有
座年と云座年と云長而座年と云座年と云座年と云座年と云座年
座年と云座年と云座年の内又座年と云座年の内又座年と云座年
座年の制也人として恒と云座年と云座年と云座年と云座年と云座年

従之是の如く其賦の用を門内所の所する是の時録抄の如くも
五位所の如くは國ともも其賦を定姓而し書有て其書と名は其
書之をちり年長今より其法之

史食種實地書と事

史食種實の左例の事あり其法ともも山手録載の事あり其
右一紙の古人の書と名に制正をせり其事ハ平日の如く其法
一而衆法移と事も其政乃急智謀せん其法

一 農業全年書凡飢饉の兆と其智人の其六夏の月少と云々
其書は七月の月物とも月物とも也農氏の本食と後せしむ
其書は其書と事あり其法ともも其書は其書と事あり其法
其書は其書と事あり其法ともも其書は其書と事あり其法

一 荒政愚賢之人此の穀を生立穀盡く穰秋し其る年根
木葉は東午侍斃く行の録の如く可於色と

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 山午房 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 |
| 紅豆苗 | 篇豆苗 | 百合 | 麦門冬 | 苧 | 椴 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 |
| 菖蒲 | 老鴉蒜 | 山藜苗 | 地冬 | 車輪菜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 |
| 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 |
| 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 | 藜 |
| 木槿樹 | 白楊樹 | 椴子樹 | 柏樹 | 包莖樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 |
| 楮樹 | 松樹 | 槐樹 | 榆樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 | 椴樹 |

右の食食して其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも
其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも
其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも
其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも其法ともも

味噌と飲者と食しては腹中ふらぬは是より〜奥細の百姓
 可成程と味噌と焼つく〜せん〜小老ふ〜先年まで〜本年有又法年の
 肉より〜羨布〜近年か〜い色〜も様も事なり〜飢饉年の移小〜
 重慶のとの運朝鮮小い〜す〜野と〜と〜人有是又魚免〜
 相更金貨の事法例の事小い〜ひ〜さ〜水共損亡の一箇一額か〜
 小い〜史金貯の首を〜味せ〜先男女老人子供と〜ケ〜食〜飢〜
 と〜と〜撰て〜元〜五付連の目般と様〜存〜を〜日男〜小合女〜
 去年〜小い男〜は公女〜此合意釋〜も〜同族の移〜但道網の〜
 志〜所〜以〜保〜も〜り〜ん〜ん〜
 刻代〜を〜は〜法〜後〜の〜利〜ら〜
 の因と〜備内代金〜も〜
 今年〜遠國〜も〜小〜有〜が〜返用〜と〜水〜年〜被〜と〜御〜分〜と〜也

四郡境川附例地種湯と事

山形管境種湯木不〜出〜乃〜
 多湯木不月〜日〜送〜

〜して〜記〜於〜

一 地方官同中書とと忽と四管部境の川ハ川乃中央と境と相互の
 定法とと中央切水原水乃流と境と相互公古法とと

梅さる小國管境と川分各治吏の例は用よの法定有は國繪巻又水林案
 の依係と外米事分水原水乃法定有又法ととの山方換地の奥書に繪祖
 湯原と付法種地種と村並小記せ〜も〜
 紀せ〜換地と者〜と考〜小〜木〜木〜
 何事〜とも〜家團と〜と〜色〜
 奥〜と〜乃〜事〜法〜

一 川瀬野附例東中城と川原の川瀬大水と向と村方の川原

附例村方の種湯野系池河原木世方の地換の種と地換
 た〜は〜向村とお〜と〜地〜不〜も〜は〜方〜の〜地〜と〜地〜方〜乃〜定〜法〜

雖然田畑村々の内は地不なればは方の此は以て成るべき事なれど
是を向て村方減り成難成事なれば向て田地の少くも
是と成地の中へ川瀬等所治すべし成地は是の如く
是の如く成地は是の如く成地は是の如く

梅屋敷小川所治所治すべし成地は是の如く
川瀬等所治すべし成地は是の如く
成地は是の如く成地は是の如く

一 梅屋敷原山村入會乃地不なればは方の此は以て成るべき事なれど
年負而出る成又成地は是の如く成地は是の如く
事は如何にも先を成地は是の如く成地は是の如く

一 百姓持て梅屋敷山林中成りて割持ふ切らば成りて成りて成りて

以て成地は是の如く成地は是の如く成地は是の如く
入會無事年負成地は是の如く成地は是の如く

西之田地之事

西之田地は是の如く成地は是の如く成地は是の如く
成地は是の如く成地は是の如く成地は是の如く

一 地不なればは方の此は以て成るべき事なれど
成地は是の如く成地は是の如く成地は是の如く
成地は是の如く成地は是の如く成地は是の如く

一 逆電名居成りて田地は是の如く成地は是の如く

中付並公河の科多く方仲成りる通電火倉はともとのを
外に之を中との後法日との隔り部田地を飯の半と有る
惣作の中付を中と

一 東道百段奉直洞兼比連田地は之より中儀之を法公東道
百段何もの個當能如く上田地より田地次第より上
惣作の中付又も小作をも法公東道の東道分能如く之
地は田地と連一為九の半と有る候ふ

一 或贈金書に關東東道の百段田地又も上作の之を法公東
徳第から中付の湯勘定所中法と東のは他徳第知法遠より半直
田中中付を中と有る候も法公東道の内出月並中
に付半中法の後合の關東と有る田地は内は中入接儀に
頭ヶ並右の内奉直洞兼比連洞兼比連の田地は内は中
内より上細の奉直洞兼比連洞兼比連の田地は内は中
法公東道の百段田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内
中且半直洞兼比連の田地は内は中入接儀に頭ヶ並右の内

捨見坪川の事

捨見を他毛の目より毛をも坪川者毛法後分法に母は取の先
事の傍後也

一 地方を洞書に坪川拂と有り是間を法公東道の内は中入接儀に頭ヶ並右の内
内法之由と有る事也一 亦も流の干の正と曲の先と母と
坪川と次接坪川の付の法公東道の内は中入接儀に頭ヶ並右の内
田地に之入動の坪川も法公東道の内は中入接儀に頭ヶ並右の内

刈取りしなり取事之他共古未分推見を方注するもの地終
是を以換取を請ふ百軒を是と取く事負の出するを程と訂し
時あるの考を以程取はしめぬ極小の國官村小村の地終に
不換取と程りれ免小換取をせ全神の事少くても推見
一卜廻乃は是を以程りれ免小換取をせ全神の事少くても推見
法代官の推見を以換見の大換見分り小換見は換見止加しが事
乃年の事少くても例の年の事少くても一旦法代官の推見
言事又小換見を以しての味味布さ換取をせ下りあり法代官
勿論味味のは方注書付も出あり又少くても例の年の事少くても
換見といは換見の程りれ免小換見大換見といは換見は換見
法代官の推見を以換見の大換見といは換見は換見は換見は換見
換見といは換見の程りれ免小換見大換見といは換見は換見は換見
是よりして一のは方小換見小換見一回小換見は換見は換見は換見
は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
大換見小換見の程りれ免小換見大換見といは換見は換見は換見は換見
一回小換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
是よりして一のは方小換見小換見一回小換見は換見は換見は換見は換見
有遠見換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見

耕地を以換取方同程りれ免小換見大換見といは換見は換見は換見は換見
と以換取方同程りれ免小換見大換見といは換見は換見は換見は換見は換見
因るに換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
納給に換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
打換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
凡換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
今略す

本條より力取箸者縣令須知に換見ノ条アリ
古今租稅ノ事

年貢の事と租稅といは換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
秋稅年貢の事と租稅といは換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
冬物年貢の事と租稅といは換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
物年貢の事と租稅といは換見といは換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見は換見
小乃信 有去るべんありかき書

一 制度通云本朝之制四有租身有庸戸有調租唐調之法モッハラ

唐ノ法ニ據ル租ト云ハ年貢ノ事ナリ庸ト云ハ夫役ナリ調トハ
家役ナリコノニツハ布帛ヲイタス何モ唐ノ法ノコトクニシテ損
益アリ

租ノ事今云段租稻二把^東把町租稻二拾束義解云田賦爲
租也又云段也獲稻五拾束稻春得米五升也昂於町者須得
五百束也ト此積リニテハ田地三百六拾坪一段ノ所ヨリ米ノイッル
事五拾束其内二束二把ヲ年貢ニ上ルナリ一町之場又準之又
是ヲ米ニスル時ハ稻一束ヲ舂テ米五升ヲ得一段五拾束ニテハ
或石五斗也其内ヲ一斗一升年貢ニハカル町ノ上ニハ戴拾五石之内
一石一斗取ナリ然レハ戴拾五分ノ一ヲ税シテ少ヨモシ

唐ノ時一男一人ニ田一頃ヲウケシテ粟ニ斛稻ニ斛ヲイタス
是ニ準シテ輕重アリ

文武天皇慶雲三年九月丙辰遣使七道始定田租法町拾五
束及點役丁右者續日本記ニ見エタリ拾芥ニソノ時ノ

勅書ノ略ヲ擧テ云宜別充租稻一束五把ト同キ事ナリ
然レハ大宝ノ時令ヲ撰ハルニハ一町ニ斛一斗ヲイタストヨリ
此時減少シテ七斗五升ニ定メテ取ラルト見エタリ拾芥ニ
段別ニ充租トアレハマシテ取ヤウニ聞ユレトモ續記ノ通ニテハ
令ノ定メヨリ減省シテ取一ナリ然レハ三拾ニテ一ヲ取ヨリモ
ロコシ町ノ租五百束ノ内ヲ拾五束トル寸ハ三拾二分ニテ又五束
弘仁式云上田一段地子拾束中田一段八束下田一段六束下々田
一段三束拾芥云租地子雖出一流格式ノ時租ハ數少地子ハ租ト
各別本朝ノ古法天下ノ百姓歳二十ニヨリ六十迄ノ内ヲ正トシテ
ソノ内四十歳ハ定マリテ一年ニ夫役十日使ト立タルモナリ何

ニテモ其身ヲ丈ニ使トキハ其通モレ丈役ニ使ハサレハ其代々
布ヲ取是ヲ庸布ト云一人前ニ日ニ尺六寸ト夕テ十日ニテ二丈
六尺一端ト取事ナリ又十日正役ノ外加役三十日ニツモルトキハ
租並ニ調トモニコレヲユルス但加役三十日ニミタサレハ一人前ノ租調
ヲ三十分ケ其一分ヲ一日トシテ加役ノ日數ヲ算用シテ是ヲユ
ルス上ニ所謂折免是ナリ惣別正役加役ニ通シテ一人手前三年
ノ内夫役四日ニスギス又次丁ハ二人アハセテ正丁一人ノ役ヲスルナリ
次丁ト云老人六十以上ノ者又ハ病人ナトヲ云令ニ老殘並爲次丁
トハ是ナリ

唐ノ時ニハ正役年ニ貳拾日閏年ニハ二日ヲ加ヘ庸布日ニ三尺加役ニ
通シテ五十日ト定メ十五日ニテ租ヲユルニ三十日ニテ租調共ニユル
ス本朝ノ法是ヨリシテ損益ニ簡ニシテ寬シ既ニ上ニ詳ナリ

文武天皇慶雲三年十月庚寅詔制下七條事其五曰准令
正丁歲役庸布二丈六尺常欲輕歲役ノ庸息人民ノ令並
宜減羊コノ時ニ二丈六尺ノ庸布ヲ減少シ羊分ニセラルト見
エタリ日數ノ一ハ令ニ替ルナレ調ノ事令ニ云凡調絹絶絲
布並隨郷士所出正丁匹丈一人絹絶八尺五寸六丁成匹長
五尺一尺廣二尺二寸養濃絶六尺五寸八丁成匹長五尺二尺
廣同絹絶絲八兩綿一斤布二丈六尺並ニ町成ノ約比四丁成
端長五尺二尺廣二尺四寸其望池布四丁成端五尺三尺廣二尺
八寸右ノワケハ本朝ノ古法天下ノ百姓二十一ヨリ六十迄者ヨリ
所々ノ出產ノ品ニヨリテ取事ナリ是ヲ調布ト云絹ナケレハ絶一人
前ハ八尺五寸宛イタシテ六人ニテ匹ヲ成就ス五尺一尺ナリ
養濃絶ハ六人ニテ五尺二尺一匹ヲナシ絲ナレハ一人前ハ兩二丁

十六兩一約ヲ成綿ナレハ一人前一丁ニテ二丁ニテ二斤一匁ヲ成ス
布ナレハ一人前ニ丈六尺ニテ二丁ニテ一端トナル中男ハ四人ニテ
正丁一人ニ準ス中男ト云ハ十六ヨリ二十迄ノモノ也此外ニ又雜物
ト云モノアリ鉄鹽饅堅魚此紫菜海藻ノ類正丁一人ヨリ出ス
有又調ノ副物ト云テ此藍木綿漆黃等ヲ出ス品々有是
品ヲ合テ凡ニ調ト云ソノ品目詳ルコトハ令ニ具ナリコニアラハサス
ヘテ調庸ノモノハ毎年年八月中旬ニソノ取ヨリ起輸シ近國ハ十月
晦日中國ハ十一月晦日遠國ハ十二月晦日マテニ大藏省ヘヲサムルナリ但
シ調ノ系ハ百姓ノ手前ヨリ蚕事ヲワリテ即輸シ七月ヲマタス
七月此日以前ニ省エヲサムルナリ調ノ事ハ前ニ論スル家別ノ
絹年貢ナリ故ニ是ヲ戸調トイヘリ然レモヲシナヘテ家別ニ
イタスニ不有戸ニ課戸不課戸ト云フ有テ成丁已上課ロアル

ヲ課戸トシナキヲ不課戸トス然レハ調ハ課戸ハカリ出スト見エタリ
今日戸内有課口ハ爲課戸無課口者爲不課戸義解云不課口謂
皇親及八位以上男年十六以下並蔭子老日廢疾書妾女家人
奴婢唐令ノ文本朝令ト全ク同キ事也是ハ歷々ノ人病人女
下人等ヲ課セラルニヨツテ是ヲ不課ロト云フホカ正丁ノ分ヲ
課ロト云課ハカリヨリ調物ヲ出スナリ貢物ノ事中國ニテハ賦
稅ノ外ニ有禹貢ニ諸列ニ厥貢トシルサル唐ニテモ其通ト見エ
タリ本朝ニ在々國々ノ貢物ヲスグニ調ノ内エイレテ租庸調ノ
外ニ貢ノ名ナシ其内雜物ト云時ハ鹽鉄魚類等ヲ具定リ
ノ數等出セハ調ノ絹布ハユルサルト見エタリ調副物ト云トキハ
定タル調ノ絹布ノ外ニ又此品々ヲ出スト見ヘタリ令ヲ考テ
辨ヘシ調布コレヲテツクリト訓ス

予をたしめたるは乃ち大に沙のなる大納言といふ事なる事
ふらなることありては乃ち大に品と正位とを名にさるる之は
一佐と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は

楊子より小別を通過し下りては乃ち正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は

一 鈐録云中古ヨリ兵農分レ地頭四分百姓六分ニ租税ヲトル然レ共其地頭四分内一分ハ朝家ノ租税ニシテ此内ニテ國司ノ禄其外ノ國用ヨ足ス

楊子より小別を通過し下りては乃ち正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は

租税もたしめたるは乃ち大に沙のなる大納言といふ事なる事
ふらなることありては乃ち大に品と正位とを名にさるる之は
一佐と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は

一 將軍家譜豊臣家譜云又録四年又下九條法割テ諸人具三日天下賦税三分一者地頭取之三分二者耕民可自取之恒莫田畝就荒無也

楊子より小別を通過し下りては乃ち正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は
正位と正位とを名にさるる之は正位と正位とを名にさるる之は

一 集條外書云古今の制を以ては乃ち正位と正位とを名にさるる之は

ついで今日物と上法の同く大身小身共小成未と云ふも
難知之乱のさしと云ふ一古も日物と云ふも
これゆへに言田屋分を介してと云ふ事首と云は方野
上の水と入其田屋分を介してと云ふ事首と云は方野
田屋分小成未と云ふ事首と云は方野田屋分小成未と云は
上田十、小成未と云ふ事首と云は方野田屋分小成未と云は

梅を引く世間と云は世と云ふ方地野分は方野田屋分と云は
地野分は方野分と云は上田十の地野分は方野田屋分と云は
百段に分ちぬい合して地野分十二百段中八は方野田屋分は方野田屋分
の割とあるは方野分小割合の物と云ふ事首と云は方野田屋分
川と云ふは方野分と云は方野分小割合の物と云ふ事首と云は方野田屋分
一つの物と云は方野分小割合の物と云ふ事首と云は方野田屋分

一 地方同書云々 國東地方は江戸幕府の頃より
後長法と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は

國東方根を根と云ふ二つ割と云は方野分と云は方野田屋分と云は
後長法と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
東も地方と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
少成未と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
平物と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
三平と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は

梅を引く世間と云は世と云ふ方地野分は方野田屋分と云は
小成未と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
上田十と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
平物と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
三平と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は

又云細方の取園車方水と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は
下流と云は方野分上田十の地野分は方野田屋分と云は

又とらん帝よりふ糸おゆの高う返しては海止の時もあらずして
山海に江戸までいふありてはとて世に事打洋とて事殺り出辰
とていふ事家先一の幸福とて事所いゆふ今うの世弟教をいふ事成時ハ
二高うをいほひて士農がういむ士農固窮しては二高うを三飛一はホの
遠くをいほひて人情財勢のういむいむ事やとていふ事天下にありて
をいほひて事所い孔子の家説もいふ事農小智いといふ事農をい
いふ事之をいほひていふ事今より事いふ事いふ事いふ事いふ事
事いふ事考いふ事いふ事いふ事

田園類説中巻

